

6 達磨山

だるまやま

天城峠から西に向かって延びた水嶺は伊豆山稜線歩道である。伊豆山稜線歩道の西の端にあるのが達磨山である。伊豆では三ヶ所ある一等三角点の一つがあり、その展望の良さから十三国峠とも呼ばれている。

十三国とは安房（現在の千葉県南部）・相模（神奈川県）・武蔵（埼玉県）・甲斐（山梨県）・信濃（長野県）・伊豆（静岡県東部）・駿河（静岡県中部）・遠江（静岡県西部）・三河（愛知県東部）・尾張（愛知県西部）・美濃（岐阜県南部）・伊賀（三重県西部）・伊勢（三重県）である。一等三角点の後の二つは万三郎岳（1405.6m）と南伊豆町と松崎町の境にある暗沢山（520.3m）である。

達磨山の名の由来は、静岡県中部の由比・清水方面から見ると、丁度ダルマさんの姿に見えるという。また、滑って転んでも、すぐに起き上がる山、という説もある。

このコース、戸田峠からだ、終始富士山を背にして歩くことになるので、逆の船原峠から歩いたほうがおすすめです。

修善寺駅から松崎、または長八美術館行きのバスで28分、大曲茶屋で



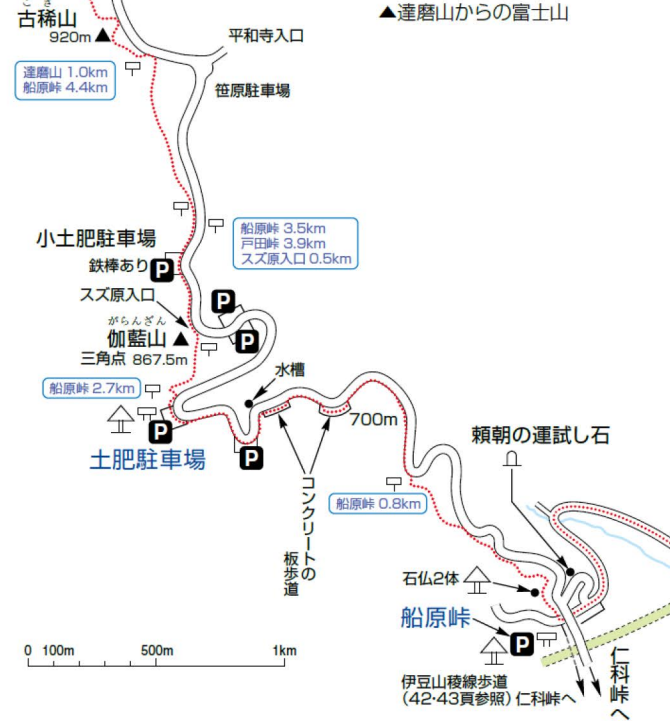
▲達磨山からの富士山



▲沿線から戸田湾を望む



▲達磨山へ向って



下車、国道をそのまま進んで、旧道に入り、およそ3km先の船原峠へ。西天城高原線の大きな橋の下から橋げた沿いに階段を上る。2体の石仏を見て灌木林を抜け、一旦スカイラインに出て、再び灌木林に入る。各入口には道標がしっかりあるので迷うことはない。この後、しばしスカイライン沿いの歩道を緩やかに上がると広い土肥駐車場に着く。西天城方面の山並みと土肥方面、駿河湾が望める展望地で、北の灌木の間から富士山も望める。

駐車場の端から再びササ原の歩道を上ると、左手のササ原の中に三角点がある。スカイラインに出た所に伽藍山の道標。山頂らしからぬ場所である。本来は三角点の所が伽藍山であろう。

スカイライン沿いに進むと、小土肥駐車場。なせかここに鉄棒がある。この後もササ原の歩道に入り、枯死木に注意しながら歩いていくと古稀山に出る。富士山が素晴らしい姿を見せる所、近年、古稀（70才）を迎えるハイカーがよく訪れる山として人気がある。

達磨山は目の前だ。緩やかなササ原を登ると二等三角点のある達磨山山頂だ。達磨山は達磨火山外輪山の

富士山の展望を楽しみながらササ原の稜線を歩く

最高峰で天城山、箱根山、南アルプス、丹沢山地、駿河湾と360度の大展望を誇る頂である。

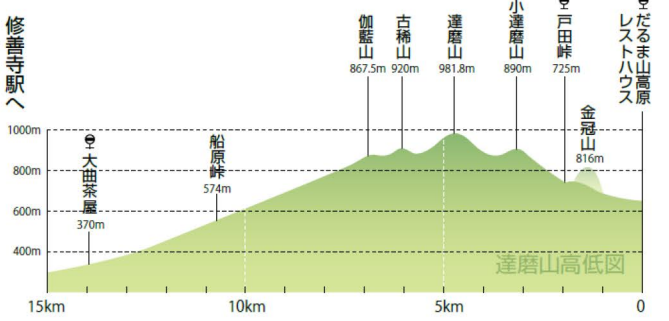
達磨山は天城四兄弟の長男で、別名万太郎（番太郎）とも呼ばれている。後の三人は万二郎・万三郎・長九郎である。

富士山に向かって下る。左手に弧を描いた入江は戸田湾である。一旦、スカイラインに出て、再びササ原を登る。アセビやイヌツゲの木が目立つ。春には達磨山の斜面はアセビの白い花とマメザクラのピンク色で染まる。

小達磨山を越えて下ると戸田峠に出る。ここで修善寺駅行きのバスを待てばよい。バスの便が少ないので事前に調べておくこと。時間と足に余裕があれば、金冠山を往復してもよい（所要時間は30〜40分）。し、だるま山高原レストハウスまで歩いてもよい（約40分）。



▲船原峠の石仏



達磨山高低図